

国際森林製紙団体協議会(ICFPA)若手研究者表彰制度において 日本人研究者2名が最優秀研究者に選出

製紙・木材産業の国際業界団体である国際森林製紙団体協議会(ICFPA)¹⁾は、紙パルプ・森林科学分野における若手研究者を対象とした表彰制度「Blue Sky Young Researcher and Innovation Award」を創設し、本年第1回目となる表彰式が5月18日にドイツ・ベルリンで開催されたICFPA 国際CEO円卓会議²⁾において行われました。

本表彰制度は、大学や企業などに所属する30歳以下の研究者を対象に、革新性や将来性などの観点から特に優れた研究を表彰するものです。今回の表彰では、世界の応募者の中から、紙パルプ技術協会の協力を得て日本製紙連合会が推薦した王子ホールディングス株式会社 酒井紅さんと国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 藤澤秀次さんの2名とブラジルの業界団体が推薦した1名の計3名が最優秀研究者に選出されました。3名の受賞テーマは次の通りです。

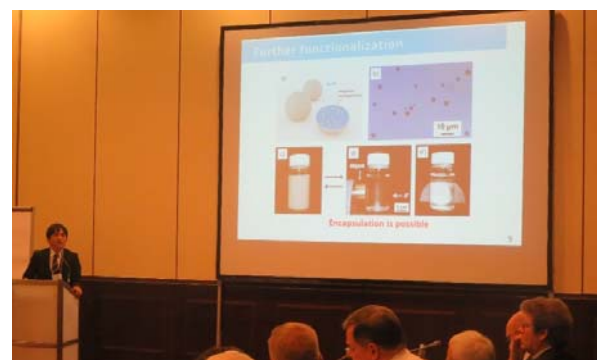
- 酒井紅さん 「リン酸化法によるセルロースナノファイバー製造」
- 藤澤秀次さん 「生体適合性を有するナノセルロース/ポリマー複合マイクロ粒子のエマルジョンテンプレート合成」
- Mr. Esthevan Gasparotto 「森林モニタリング測定の最先端技術について」

酒井さん、藤澤さんの研究テーマはともにセルロースナノファイバー(CNF)³⁾に関するものであり、世界の製紙・木材業界のCNFに対する期待の高さが示された形となりました

表彰式では受賞者による記念講演が行われ、酒井さん、藤澤さんの講演に対し会議出席者の欧州等の製紙・木材企業CEOからは活発な質問があったほか、セルロースナノファイバーへの期待についてコメントが多数ありました。



記念講演を行う酒井紅さん



記念講演を行う藤澤秀次さん



(左から)当連合会馬城文雄会長、酒井さん、藤澤さん、当連合会羽山正孝理事長

1) 国際森林製紙団体協議会 (International Council of Forest and Paper Associations: ICFPA)

各国・地域の製紙・木材業界団体間の交流や情報交換の推進、そして森林問題や気候変動問題など国際的な問題について世界の木材・製紙業界として共通の立場の形成に取り組むことを目的に 2002 年に設立された国際業界団体です。

ICFPA には、日本や米国、欧州、カナダ、ブラジルをはじめ世界 18 カ国・地域の製紙・木材業界団体が加盟しています。

2) ICFPA 国際 CEO 円卓会議

世界の製紙・木材企業の CEO や業界団体の理事長が一堂に会し、原料問題、気候変動・エネルギー問題、貿易問題など業界の課題について議論を行い、相互理解・協力の増進を図ることを目的としています。同会議は 2005 年に創設され、今回ベルリンで開催された会議を含めて、これまでに 8 回開催されています。

3) セルロースナノファイバー (CNF)

木材から化学的・機械的処理により取り出した直径数～数十ナノメートル (1 ナノメートル = 10 億分の 1 メートル) の繊維状物質です。CNF は、鋼鉄の 5 分の 1 軽さで強度は 5 倍以上、また熱による膨張・収縮が少なく透明性にも優れています。自動車や家電製品の部材、高機能フィルムなど多様な用途展開が考えられ、次世代高機能材料として期待されています。

<本件に関するお問合せ先>

日本製紙連合会 総務・広報部

担当: 原口直人、木村茂明

電話: 03-3248-4801 FAX: 03-3248-4826

東京都中央区銀座 3-9-11 〒104-8139